

茨城町・東京北品川一丁目交流事業

「きらり一丁米」田んぼで大喜び

田植え・稲刈農業体験



町を代表して江幡甚一経済建設部長が歓迎のあいさつ（中央）



茨城県農産物販売推進東京本部 塚本和郎本部長があいさつ（中央）



長谷川重幸駒場営農組合長があいさつ（中央）
参加者全員にあじさいの小鉢も提供



米、味噌、豆腐を販売



常陸牛とローズポークがとっても美味しいと評判



感謝の言葉を述べる大塚好雄
北品川一丁目町会長



味噌汁やおにぎり、しじみを提供してくれた永井國男近藤農事実践（株）代表（右手前）と圃場の提供と管理をしてもらう仲内利一植農地域営農組合長（左手前）



田植え前にバーベキューでもお腹一杯

5月16日、東京北品川一丁目町会の消費者と茨城町で田植え交流体験を茨城町長岡地内の水田で実施した。この交流事業は、茨城町と北品川一丁目町、茨城県が主催、JA水戸と近藤農事実践(株)が協賛し、今年で3回目を迎える。過去にはメロン狩りやさつまいも掘り、ぶどう狩りを行い、品川区民と交流を深めている。

この日参加者らは、今年3月に開港した茨城空港を見学したあと、涸沼自然公園で昼食会。公園内の会場では歓迎式典を行い、県や町からの歓迎の言葉が贈られ、大塚氏から感謝の言葉が述べられた。茨城県産の常陸牛やローズポーク、地元で収穫された野菜を使い、バーベキューを行い、肉や野菜がとっても美味しいと評判だった。

また、敷地内にはとうみ味噌を使った味噌汁やおにぎりも用意され、テント内にはコシヒカリや味噌、青大豆豆腐などの販売も行い、賑わいをみせた。

午後には町内の水田を利用し、地域の農家からも手伝い、集まった約70人が田植えを行った。今回圃場を提供くださった仲内利一氏と植農集落の農家の方の指導のもと、参加者らはコシヒカリの苗を片手に約1000㎡に苗を植え始まった。



始まる前に山口成子 JA 女婦部長より田植えの説明



横一列に植え始める参加者

裸足になった参加者らは、苗を片手に一列になり、農家の方々と一緒になって始まった。途中、中腰で疲れた腰を労わり何度も立ち上がる姿も。



1本1本丁寧に植えるのは大変



途中で、腰も疲れ一休み

昔ながらの田植えの大変さと同時に一本一本植える喜びを感じていた。

反対側の圃場では、8条植えの田植機が用意され、参加した子供たちを乗せて現在の田植えを披露。初めて乗る子供たちは大声で大騒ぎする姿を見て、お父さんお母さんはカメラやビデオを撮影し、親子で楽しんでいた。参加者からは、「毎日コンクリートビルに囲まれ生活しているので、自然を満喫できるのがとても楽しい。また早く来たいです」と喜んでいました。



綺麗に植えられた田んぼに看板を設置
お米の名前は「きらり一丁米」



大きくなったら運転したいな～



子供たちも裸足で大喜び

参加者らは秋の稲刈りと収穫祭に参加予定。今後、町HPで苗の生育状況から収穫祭まで定期的に更新する予定です。

今回参加していただいた北品川一丁目町会の皆さん楽しみにしててください。